

六条内裏ろくでうだいり〔拾芥抄しふかいせうに云、北は六条坊門、南は六条通、西は東洞院、東は高倉なり。白河院承保二年新宮を造給ふ、

六条内裏これなり、又六条院ともいふ。皇女郁芳門院いちはうもんいんも住せ給ふ所なり、皇女薨じ給ふ後寺となして六条御堂みだうと号す。

弘長年中、聖一しやういち国師くわんせうの徒弟たんせう湛昭、六条御堂ノみだうを革あらためて禅刹となす、万寿寺まんこれなり。其後万寿寺焼失しぬれば、東福寺の塔

頭さんしやう三聖寺の内に遷す〕

園太曆云 白河院承保三年八月卅日、六条新宮棟上也、讚岐守さぬきのかみあきすゑ顕季造ニ營之一。

百練抄云 承保二年十二月廿一日、遷幸ス新造六条皇居ニ。

中右記云 寛治八年正月三日、行幸上皇御所六条殿ニ郁芳門院同御ニ此所ニ。

百練抄云 保安四年十一月十日、六条院焼亡ス、本郁芳門院御在所今為ニ仙洞ト。

六条院にて落花入簾と云題を讀せ給ひしに

家集 桜花こすのまどをり散からにちりさへけふははらはでぞみる 六条修理大夫

中右記云 天仁元年八月七日、郁芳門院御国忌也、未刻許参ル六条御堂ニ。